

資質向上のためのセルフチェックシート 【教諭】

所属	
氏名	

記入年月日	令和	年	月	日
記入年月日	令和	年	月	日

キャリア・ライフステージ	総合力の発揮期
年齢・教職経験年数(目安)	48歳～ ・ 26年～
目指す教員像	教諭としてのこれまでの実践を基に、総合力を発揮しながら円滑な学校運営に貢献している。また、教員としてのこれまでの豊富な経験を踏まえ、若手教員へのサポートを行うなど、人材育成に貢献している。
岩手の基本研修	ステージアップ研修<後期>(55歳～)

資質向上に関する指標	自己評価 ※							
	(①基本研修時)				(②年度末)			
	4	3	2	1	4	3	2	1
1 教員としての素養								
自ら学び続ける意欲・探究心	全ての児童生徒の可能性を引き出すため、「個別最適な学び」「協働的な学び」など「令和の日本型学校教育」を理解するとともに、時代や社会の変化、キャリア・ライフステージに応じて求められる資質を高めながら、自律的に学び、探究する姿勢を持续している。							
使命感、責任感、倫理観	教員としての使命や責任、岩手の教育を担う一員であることを深く自覚し、教育への情熱と誇り、高い倫理観を持っている。また、岩手の未来を担う児童生徒の生命を尊重し、自ら、そして組織におけるコンプライアンスの徹底に取り組んでいる。							
教育的愛情、人権意識	教育に携わる者として児童生徒に対する深い愛情を持ち、真剣に向き合っている。また、「子どもの権利条約」や「こども基本法」などの理念を踏まえ、人権尊重の意識を身に付けている。							
豊かな人間性	豊かな人間性を持ち、社会人としての常識や幅広い教養を身に付けている。							
コミュニケーション力	学校内外の様々な背景・価値観を持つ人々との対話を通して、円滑なコミュニケーションを図るとともに、チームとして課題解決に取り組むことの重要性を深く認識している。							
課題に立ち向かう力	心身共に健康で、様々な状況でも感情をコントロールしながら、忍耐力とチャレンジ精神を持って、新たな教育課題を含む様々な課題解決に取り組んでいる。							
2 学習指導力								
カリキュラム・マネジメント	教育課程の編成・実施・評価・改善に関する指導的役割を果たすとともに、学びの連続性や教科等横断的な視点を持って周囲に助言するなど、学習指導の充実に貢献している。							
教科教育等の専門性	各教科等に求められる資質・能力に基づき、指導と評価の充実に向けて組織的に取り組み、同僚教員に助言するなど、教科教育等の専門性向上に貢献している。							
確かな学力を育む授業	児童生徒の発達段階や多様性に配慮しながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実、学習者中心の授業づくりに向けた助言など、学校全体の授業改善に貢献している。							
3 生徒指導力								
発達支持的生徒指導	多様性に配慮した児童生徒理解に基づき、集団指導と個別指導相互の調和を図った生徒指導に向けて助言するなど、学校全体の発達支持的生徒指導の実現に貢献している。							
いじめ等の問題行動・不登校等への対応	学校全体の動きに気を配り、同僚の課題解決を支援するなど、いじめ等の問題行動・不登校等の解決に向けた学校全体の対応力向上に貢献している。							
教育相談	保護者等からの教育相談等に対して受容的に対処し、適切に助言するスキルを高めながら、同僚の育成に努めている。							
4 マネジメント力								
学校組織における連携・協働	学校全体の状況を踏まえ、管理職に改善方策などを提案し、調整を図りながら業務を推進している。							
危機管理	学校全体に気を配り、同僚に適切な助言を行うなど、学校における危機管理体制の構築に貢献している。							
関係者等との連携・協働	関係者との信頼関係を築き、地域の教育資源を教育活動に繋げている。							
5 復興教育の視点								
	今後予想される自然災害等に備えた実践的・実効的な防災教育を推進するとともに、指導計画の立案や校内体制の構築、教育課程の編成などを組織的・計画的に進め、教育活動全体を通じた復興教育の充実に貢献している。							
6 キャリア教育の視点								
	学校のキャリア教育に関する全体計画の立案、校内体制の構築など、社会の変化に応じたキャリア教育の具体的な推進に貢献している。							
7 特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への教育の視点								
特別支援教育	校内支援体制の充実や教職員の専門性の向上など、児童生徒のニーズに応える教育に貢献している。							
多様性への配慮	多様性への配慮に関する見識に基づき、関係機関等との連携を進めながら、特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への組織的な支援に貢献している。							
8 ICTや情報・教育データの活用力の視点								
	学校におけるICT活用の意義を理解し、授業や校務等での積極的・効果的な活用を図るとともに、児童生徒の情報活用能力(情報モラルを含む。)を育成するための授業実践等を行っている。							
	幅広く教育データを活用し、自らの指導の改善と、児童生徒の学習の改善を図ることで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に取り組んでいる。							

※「自己評価」4:よく当てはまる 3:どちらかというと当てはまる 2:あまり当てはまらない 1:当てはまらない

自己の資質向上のために今後取り組みたい事項、伸ばしたい力 等	※ 備考欄
--------------------------------	-------